
基本構想実施計画（26～28年度）指標案

《コミュニティ・産業・文化分野》

目次

コミュニティ・産業・文化

地域コミュニティ	1
産業振興	4
生涯学習	7
文化振興	10
スポーツ振興	13
観光	16
交流	19

3-1 地域コミュニティ

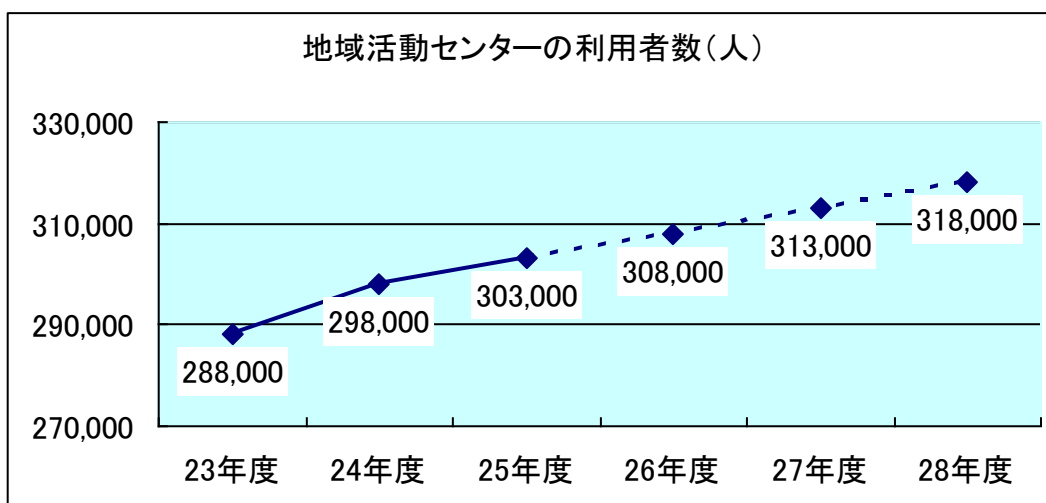
1 将来像

みんなが集う、おせっかいのまち

区民をはじめ、文京区にかかわるあらゆる世代の人が積極的に地域活動に参加し、活発な話し声が聞こえてくる、活気にあふれるまちを目指します。そして、男女が平等な立場であらゆる分野に参画できるまち、新たな仲間を地域で温かく迎え、いざというときは地域で助け合う、思いやりあふれる、いつまでも住み続けたいまちを目指します。

2 今後3か年の進行を管理する主な指標

(1) 地域コミュニティの活性化



【指標の設定理由】

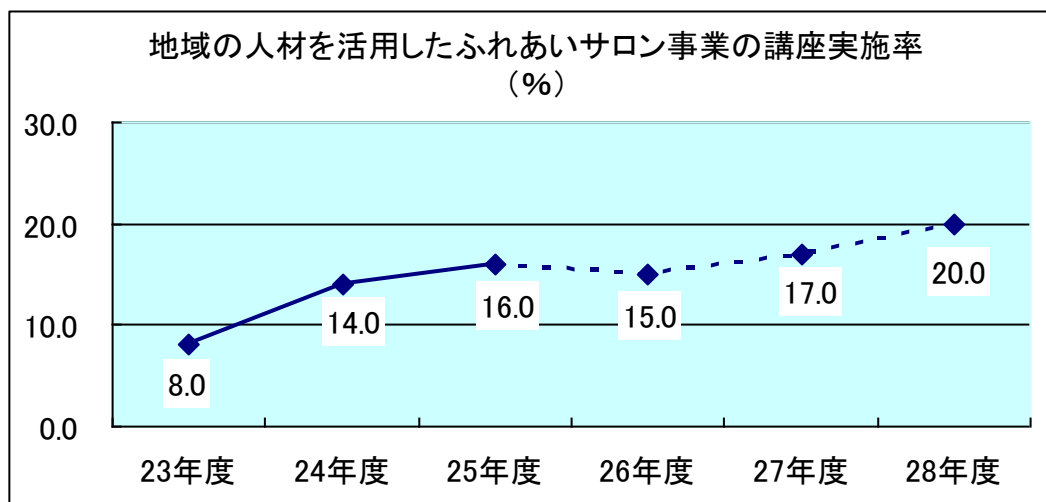
地域コミュニティの活性化には、地域活動団体や地域住民の方々への活動する場が必要です。地域の方々が一層気軽に参加できる交流の場、活動の場として地域活動センターを地域の方々を知ってもらい利用の促進を図ります。

この成果として、地域活動センターの会議室や、ふれあいサロン事業などに参加する方々の利用者数を指標とするものです。

【目標値の考え方】

過去の実績を踏まえ、利用者数について年間5,000人の増加を目指します。

(2) 交流・活動の場の提供



【指標の設定理由】

地域コミュニティ活性化を図るためには、地域の課題解決を図るために必要な人材の発掘・育成が必要です。

ふれあいサロン事業は、地域住民の方々の交流を目的とした各種イベントや講座を開催しております。今後、さらにふれあいサロン事業の充実を図り、参加した区民の方々から、ボランティアとして講師のお手伝い、または講師となって活躍する人材を発掘します。

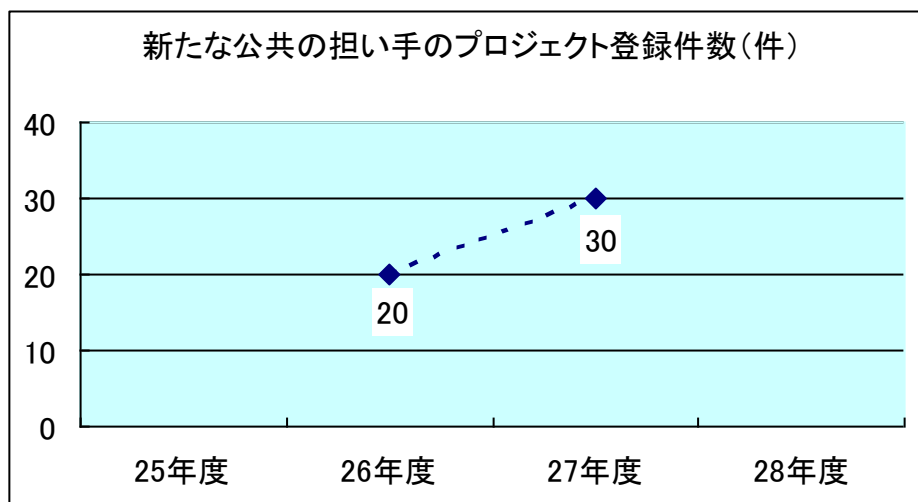
その成果として、ふれあいサロン事業全体の講座のうち、地域の人材を活用して開催した講座実施率を指標といたします。

【目標値の考え方】

地域の人材を活用して実施するふれあいサロン事業の講座を 28 年度までに全講座数の 2 割の講座で実施することを目指します。

なお、26 年度は、大原、向丘の開設に伴い、分母となる講座数が増えるため、一時的に講座率が下がります。

(3) 新たな公共の担い手と区との協働の推進



【指標の設定理由】

平成24年4月に、文京区新たな公共の担い手専門家会議から「文京区と新たな公共の担い手との協働の推進」の提言を受け、25年度から提言の実現を図るため、「新たな公共プロジェクト」を実施しています。

本プロジェクトは、27年度までの3か年実施することとしており、これらの各種取組を通じて、新たな公共の担い手と区との協働を一層推進していきたいと考えています。

指標の数値としては、25年度から新たに始める「プロジェクト登録制度」の登録件数とします。これは、地域課題解決を図る各種プロジェクトについて、「アイデア段階」「構想段階」「事業段階」等の各担い手のステージに応じて登録していただく制度です。登録されたプロジェクトについては、事業の発展・継続に向けて、区も何らかの形で関わることになるため、この件数をもって、本プロジェクト実施による協働推進の成果指標とすることとします。

【目標値の考え方】

目標値については、実績がないため、以下の仮説をもとに、毎年10件ずつあると設定します。

- ・社会起業家育成講座の中で、10チームを編成しプロジェクトの検討を行う。そのうちの半分の5チームがプロジェクト登録を行うと仮定する。
- ・その他、既存団体等からの登録が、毎年5件あると仮定する。

3-2 産業振興

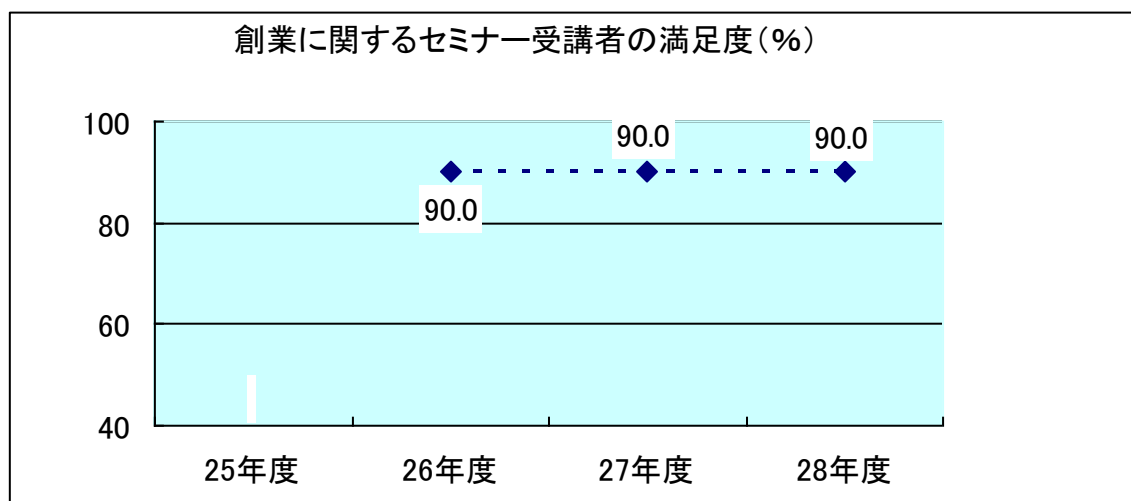
1 将来像

豊かな区民生活を支える、活力みなぎる産業と商店のあるまち

地域の特性を活かした産業振興を積極的に推進することによって、未来を担う子どもたちがあこがれ、より豊かで文化的な区民生活を支える、活力みなぎる産業のあるまちを目指します。また、利用者の多様なニーズに対応し、安心して買い物ができる商店のあるまち、子どもから高齢者まで多くの人でにぎわう活気にあふれるまちを目指します。

2 今後3か年の進行を管理する主な指標

(1) 創業・起業支援の充実



【指標の設定理由】

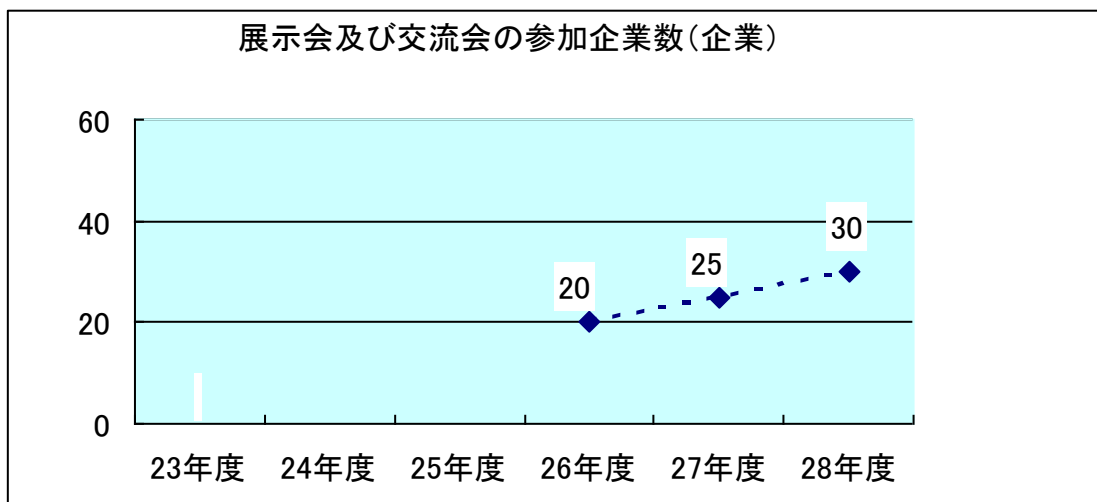
文京区における事業所数が減少しているなか、区内産業に新たな活力をもたらす創業支援の必要性が高まっています。また、文京区は、大学が集積しており、研究成果を活用したビジネスなど、大学発ベンチャーの拠点となるポテンシャルがあります。

そこで、起業家支援セミナーをはじめ、創業に関連するセミナー全体の受講者の満足度を指標とします。

【目標値の考え方】

アンケートで「満足度」を尋ねます。尋ね方は大変満足5、満足4、普通3、不満2、大変不満1とし、5及び4の評価を採点した人を満足とみなします。

(2) 異業種交流の推進



【指標の設定理由】

新製品・新技術は、異なる分野の人材、知識、技術が組み合わせによって生まれるものです。

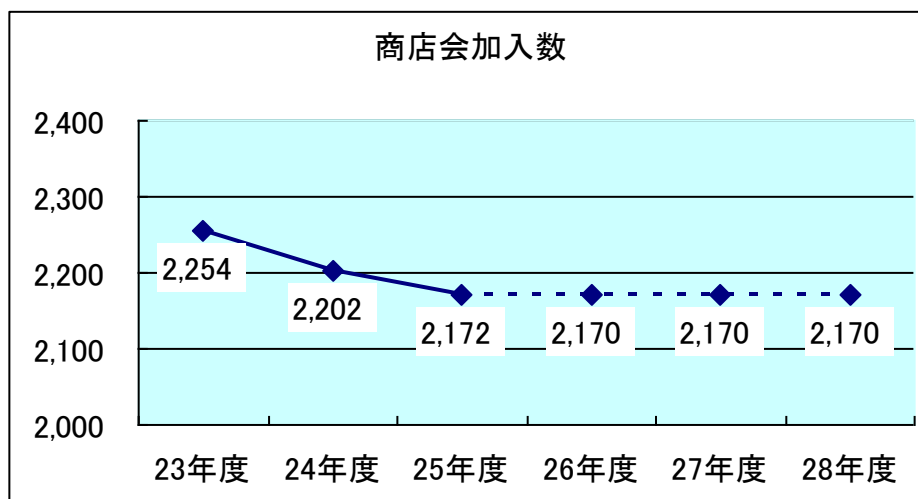
すなわち、業種の枠を超えた異業種交流を通じて、幅広いビジネスマッチングができる展示会及び交流会の機会を提供することにより、斬新な製品開発、新たな取引先との販路開拓が期待されます。

そこで、異業種交流の指標として、展示会及び交流会の参加企業数を設定するものです。

【目標値の考え方】

様々な業種の企業の参加に向けて、毎年5社増を目標に、30社程度の参加を目指していきます。

(3) 商店街の活性化



【指標の設定理由】

商店街を取り巻く状況は、消費者ニーズの多様化をはじめ、ミニスーパーの出店、他業態小売業との競争激化、インターネット等による商取引の増加などの環境変化に加え、個店経営者の高齢化や後継者難による基礎体力の低下など、大変厳しい状況にあります。

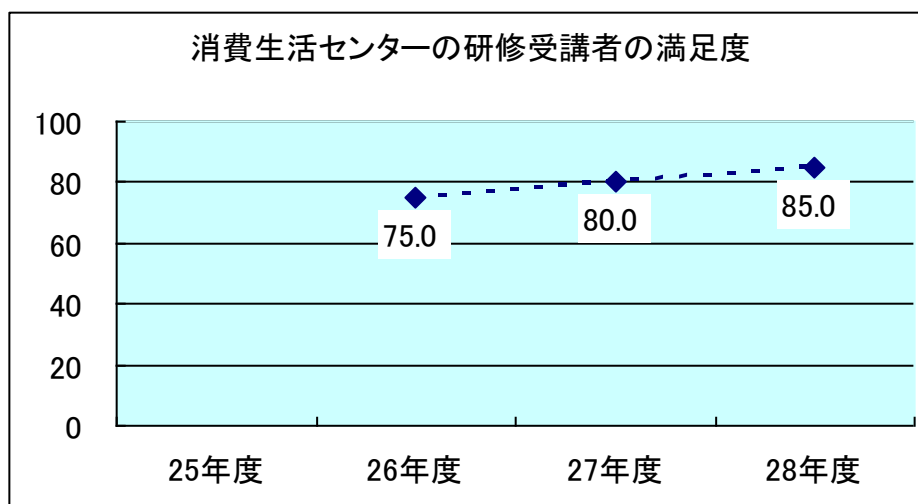
しかし、商店街は、地域の住民や働く人にとって身近な商品・サービスを提供するだけでなく、まちのにぎわいを創り出し、生活にうるおいと豊かさを提供するコミュニティの核として、まちづくりに欠かせない存在となっています。

そこで、まちのにぎわいの指標として、商店会の加入数を設定するものです。

【目標値の考え方】

過去の実績を踏まえ、店主の高齢化に伴い廃業する場合もあることから、現状維持を目指します。

(4) 消費者の自立支援



【指標の設定理由】

より良い消費生活を送るためには、消費者被害防止の観点、消費者の自立支援の観点等様々な切り口で、啓発及び情報提供が必要です。

研修会を実施するときには、対象に応じ適切なテーマを選定し実施します。

そこで、研修受講者の満足度を指標とします。

【目標値の考え方】

アンケートで「満足度」を尋ねます。尋ね方は大変満足5、満足4、普通3、不満2、大変不満1とし、5及び4の評価を採点した人を満足とみなします。

3-3 生涯学習

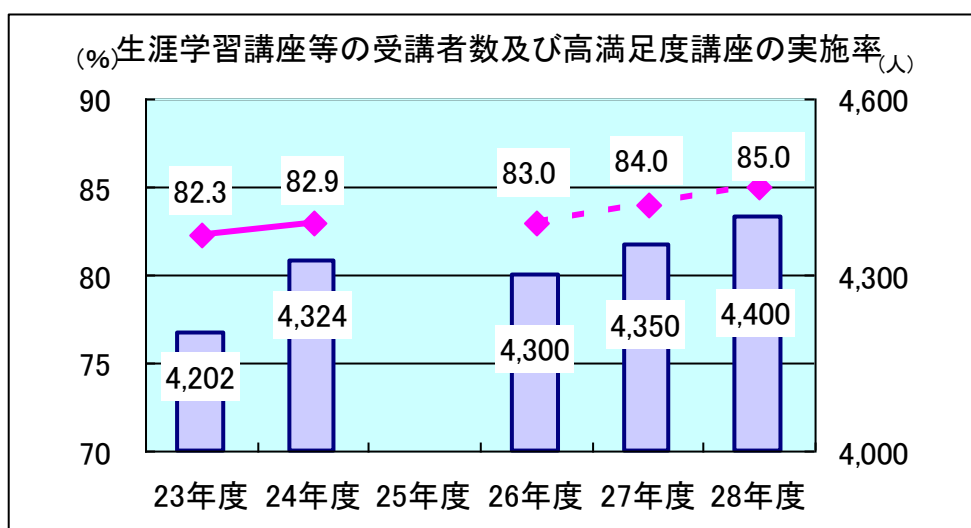
1 将来像

いつでも、だれでも、自分に合った「学び」と出会えるまち

区民の豊かな人生をサポートするとともに、「文教の府」とも呼ばれる文京区の貴重な財産を活かして、多様なニーズに応じた「学び」の機会を提供します。また、いつでも、どこでも、だれでも学びたいと思ったときに、気軽に、楽しく、自分に合った「学び」を見つけて成長することができる生涯学習日本一のまちを目指します。

2 今後3か年の進行を管理する主な指標

(1) 生涯学習講座等の充実



* 23・24年度は実績値

【指標の設定理由】

より多くの区民が自分に合った「学び」を見つけられるよう、文京アカデミア講座を始め、その他の講座、講演会などについて、区民ニーズを反映してバランスよく提供することが求められています。

バラエティに富み、充実した講座等を提供したことが反映されるため、受講者数の増加や受講者満足度の高い講座の実施率の向上を指標と設定するものです。

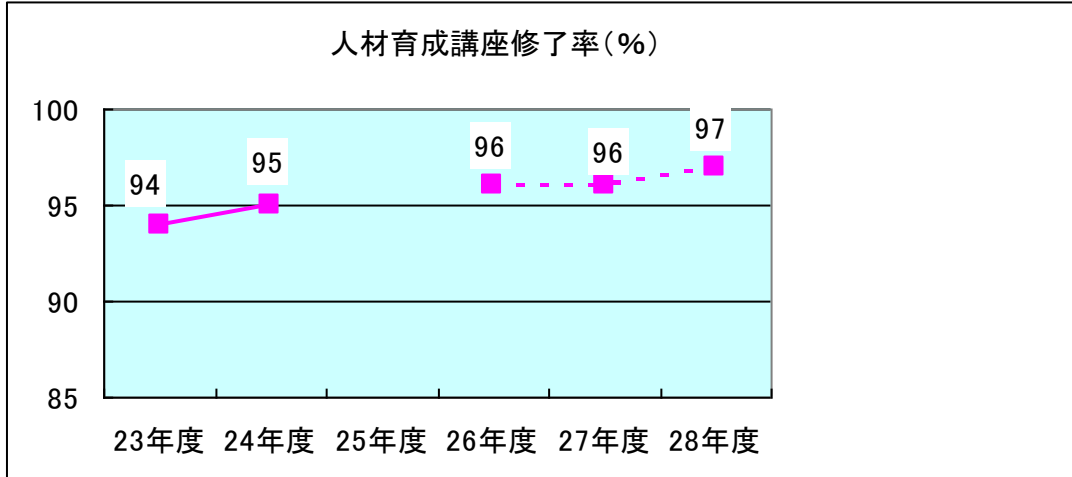
※ これまで一部講座等では受講者満足度を集計していなかったため、実績値は満足度を集計していた講座等のみの数値となっています。

※ 「高満足度講座の実施率」とは、「満足度80%以上の講座の割合（実施率）」を指しています。

【目標値の考え方】

過去の実績を踏まえ、平成 28 年度までに、受講者数については延べ 4,400 人、受講者満足度については満足度 80%以上の講座等が全体の 85%以上となることを目指します。

(2) 生涯学習活動支援の人材育成



* 23・24 年度は実績値

【指標の設定理由】

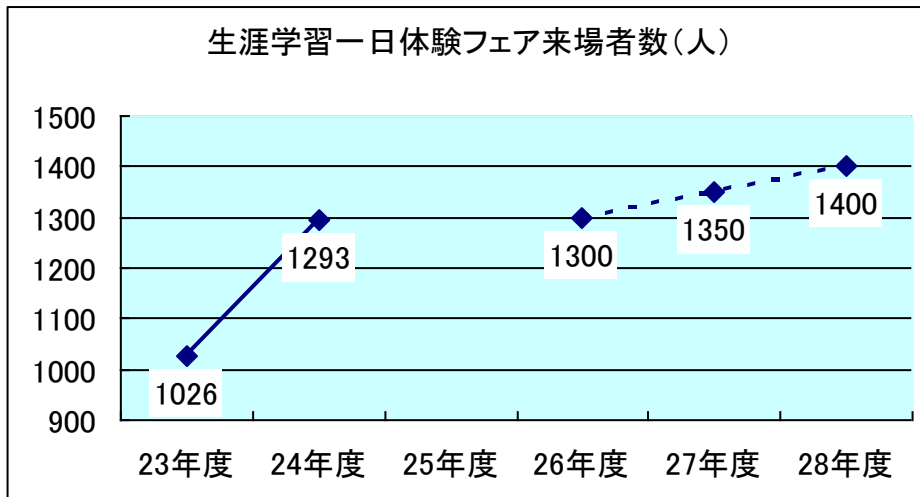
生涯学習活動を支援できる人材を育成して協働し、区民の視点に立った講座等を展開することが求められています。

人材育成講座の内容を充実させて講座修了率を上げることは、生涯学習を支援する人材を充実することにつながることから、人材育成講座修了率を指標と設定するものです。

【目標値の考え方】

過去の実績を踏まえ、平成 28 年度までに、人材育成講座の修了率 97%を目指します。

(3) 生涯学習活動への参加促進



* 23・24 年度は実績値

【指標の設定理由】

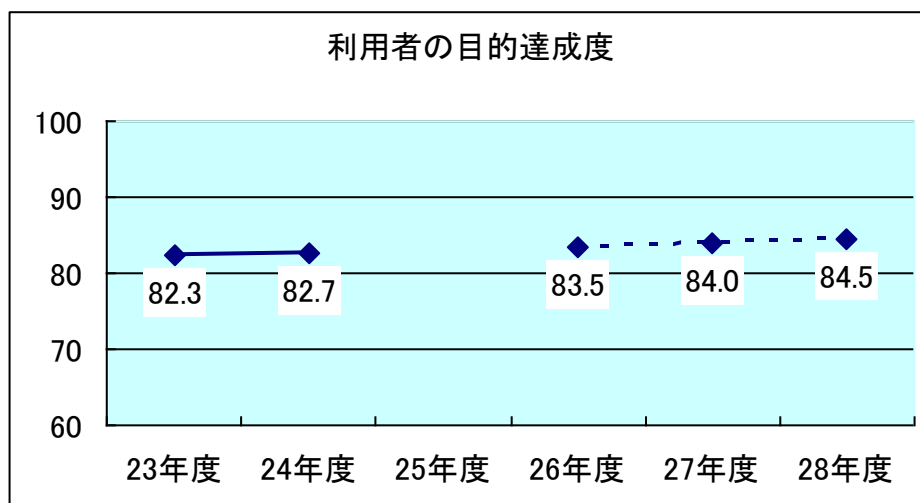
「学び」との出会いを支援し、生涯学習活動への参加を促進するとともに、活動成果を発表する場を提供するため、講座相談や学習情報の提供のほかサークルの活動発表等も行う生涯学習一日体験フェアを十分に活用することが必要となります。

活動への参加の促進に、生涯学習一日体験フェアが活用された状況を測るため来場者数を指標と設定するものです。

【目標値の考え方】

過去の実績を踏まえ、平成28年度には来場者数1,400人を目指します。

(4) 区立図書館利用者満足度の向上



* 23・24年度は実績値

【指標の設定理由】

区立図書館では、指定管理者の評価に資するとともに図書館サービスの向上のため毎年利用者アンケートを実施しています。利用者の動向やさまざまな項目について調査しています。

その中の図書館への来館時の目的達成度については、満足（54.1%）、やや満足（28.6%）を合わせると82.7%となっております。利用者の満足度をさらに向上する数字を設定するものです。

【目標値の考え方】

過去の実績を踏まえ、平成28年度までに、利用者アンケートの目的達成度については、満足、やや満足を合わせた84.5%を目指します。

3-4 文化振興

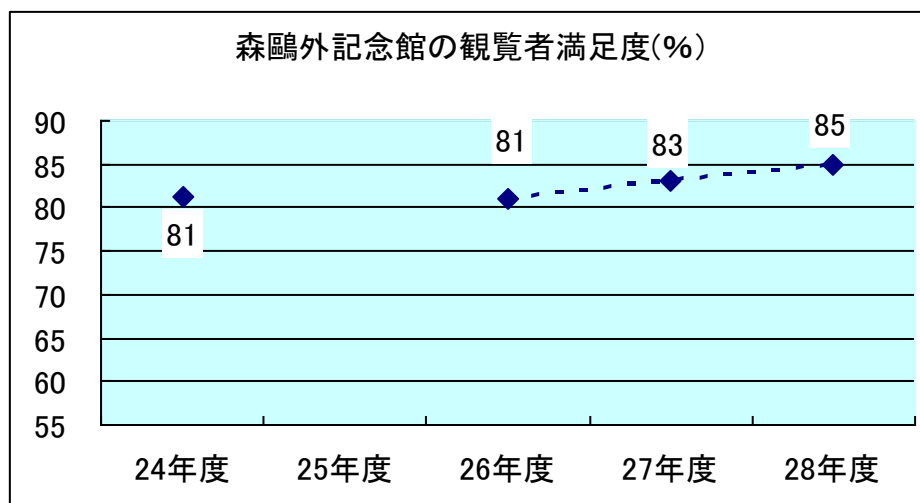
1 将来像

「文の京」の文化や歴史を伝承し、創造する、
心豊かで潤いのあるまち

区内に存在する多くの伝統文化や歴史・文化資産と共に生き、後世に伝えることを目指します。また、多くの区民が文化・芸術活動に参加できる機会や発表する場の提供などを行うことにより、文化の創造を支援し、身近に文化にふれることのできる、心に潤いのあるまちを目指します。

2 今後3か年の進行を管理する主な指標

(1) 文化・芸術との主体的・自発的に関わる環境づくり



* 24年度は実績値 (24年11月開館)

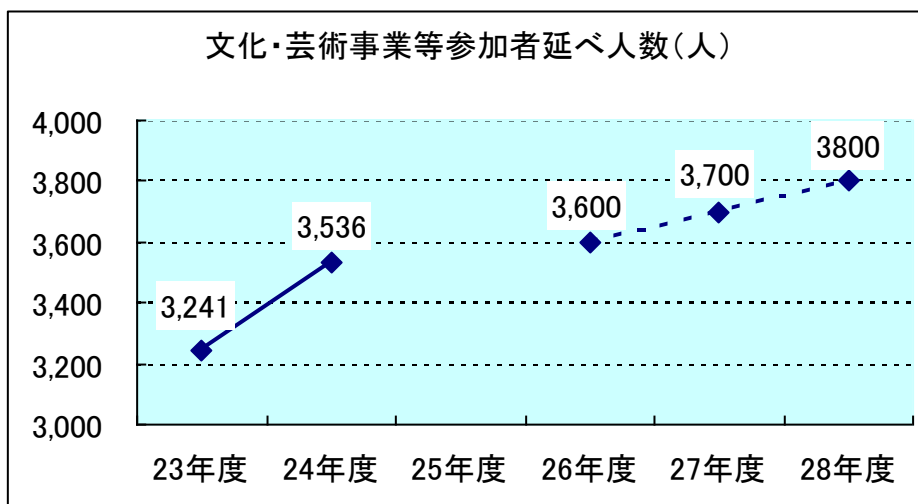
【指標の設定理由】

観覧者へのアンケートによる満足度調査により、顕彰、普及啓発及び情報発信の程度を把握します。

【目標値の考え方】

平成24年度の実績を踏まえ、今後3年間で満足度を85%まで高めていくことを目指します。

(2) 成果発表の場の提供と安定的な参加者等の確保



* 23・24年度は実績値

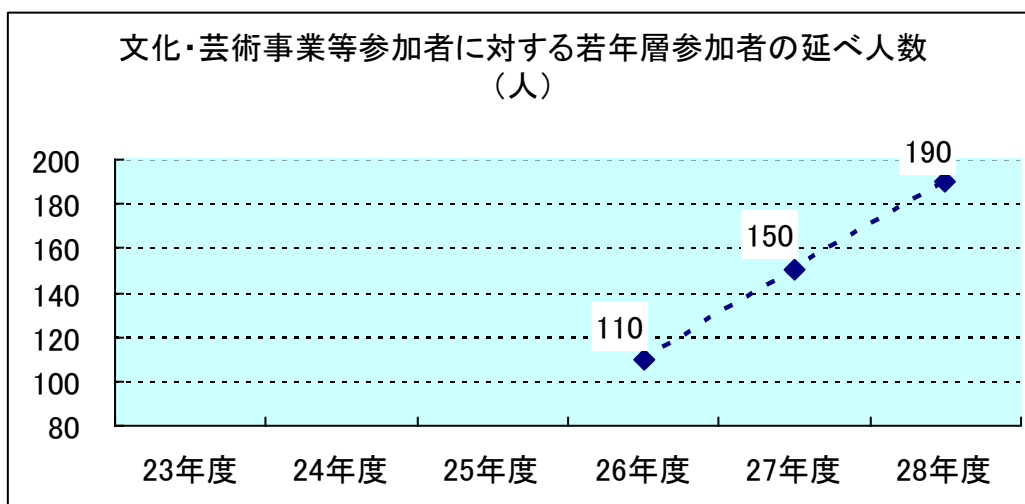
【指標の設定理由】

文化・芸術の普及・発展とあわせ、日頃の成果を発表できる機会の提供に努めます。その成果として、事業への参加者数を指標とします。

【目標値の考え方】

各運営団体・参加者の高齢化・硬直化が進行しており、大幅な増加は見込めませんが、今後3年間で5%増を目標値に設定し、堅実に数値を伸ばしていくことを目指します。

(3) 文化芸術の普及・継承、裾野拡大のための、若年層の新規参加



【目標値の設定理由】

文化・芸術の普及・発展、裾野拡大とあわせ、新たな文化の創造に繋がるよう、区内大学生をはじめ、概ね40歳以下の若年層を中心とした新規参加者の確保に努め、事業への総参加者に対する若年層の占める人数を指標とします。

【目標値の考え方】

大学等への積極的な働きかけのほか、周知対象を広げることで、段階的に今後3年間の総参加者の5%の確保を目指します。

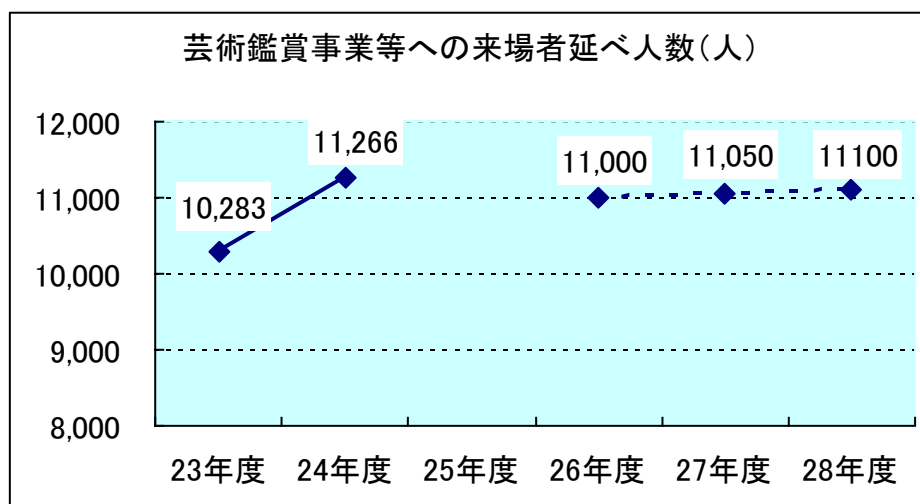
3,600人×3%=108人(110人)

3,700人×4%=148人(150人)

3,800人×5%=190人

※カッコ内の人数は、四捨五入

(4) 文化・芸術活動の普及



* 23・24年度は実績値

【目標値の設定理由】

シビックホールを文化・芸術活動の拠点とし、芸術鑑賞事業や区民参加型の事業のほか、地域の小・中学校や文化施設等における出前コンサートなどのアウトリーチ事業を行うことで、区民が身近に文化・芸術に触れ、体験し、創造できる場を提供することが求められています。

文化・芸術に触れ、体験する場を適切に提供したことが反映されるため、鑑賞事業及びアウトリーチ事業への来場者数の増加を指標とするものです。

【指標の考え方】

事業等への来場者数が平成24年度には施設等の定員の95%に達している状況を踏まえ、平成28年度までこの値を維持することを目指します。

3-5 スポーツ振興

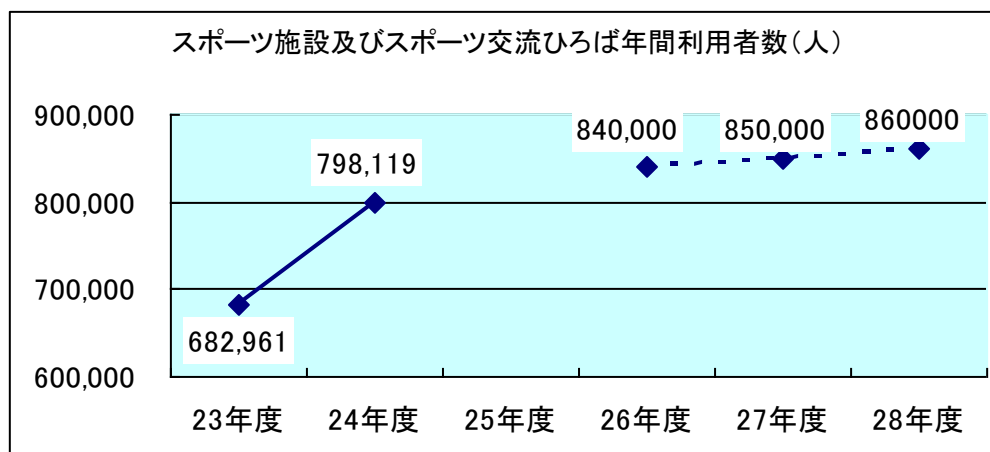
1 将来像

だれもが、いつでも、安全にスポーツに親しめるまち

だれもがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでも、安全にスポーツに親しむことで、豊かで健やかな生活を送ることのできるまちを目指します。

2 今後3か年の進行を管理する主な指標

(1) いつでもスポーツに親しめる環境



* : 23・24年度は実績値 (スポーツ施設の年間利用者数)

* : 26年度以降はスポーツ交流ひろばの年間利用者数を目標値に加えます。

【指標の設定理由】

だれもが、いつでも、身近にスポーツができ、健康で豊かな生活が送れるよう、利用しやすいスポーツ施設の整備や情報提供を行い、より一層生涯スポーツの普及・振興に努めます。

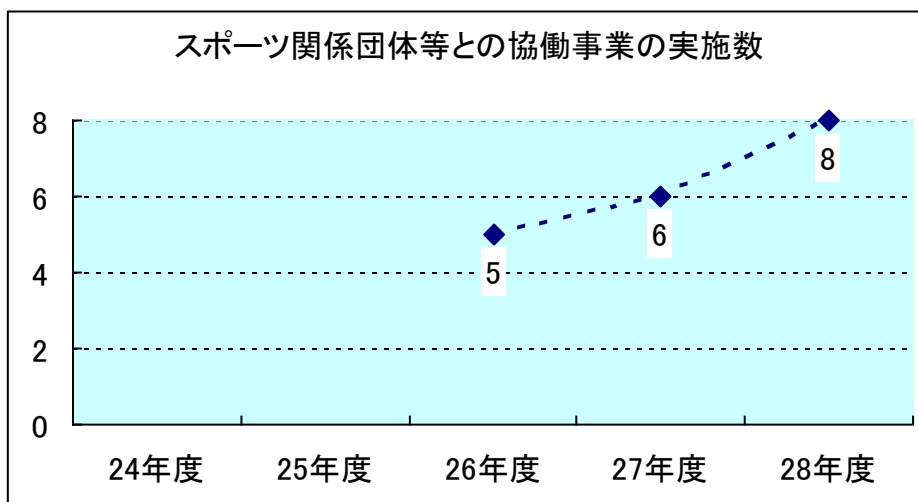
その成果を測るため、公共スポーツ施設及びスポーツ交流ひろばの年間利用者数を指標とします。

【目標値の考え方】

25年度までの計画では、770,000人を目標としていましたが、24年度実績において、目標値を達成しました。24年度に開館した江戸川橋体育館の利用率が低いことから、他の体育館と同様の水準に引き上げることを目標とします。

また、いつでも、どこでも気軽にスポーツに親しめる「スポーツ交流ひろば」については、積極的なPRや運営方法の見直し等を図ることで、より一層利用者を増やし、スポーツ活動人口のすそ野を広げていきます。

(2) スポーツ関係団体等との連携強化



【指標の設定理由】

区内には、講道館、日本サッカー協会などのプロスポーツ団体やスポーツ企業、大学等のスポーツ関連団体等が多くあります。

今後、区民にさらにスポーツの魅力を伝え、多様なスポーツを行う機会を提供していくためには、これらの関係団体等との協働により事業を進めていく必要があります。

各団体との協働事業を開催し、多様な競技種目等を幅広く紹介することで、各関係団体とのより強力な連携体制をつくります。

その成果を測るため、協働事業の実施事業数を指標とします。

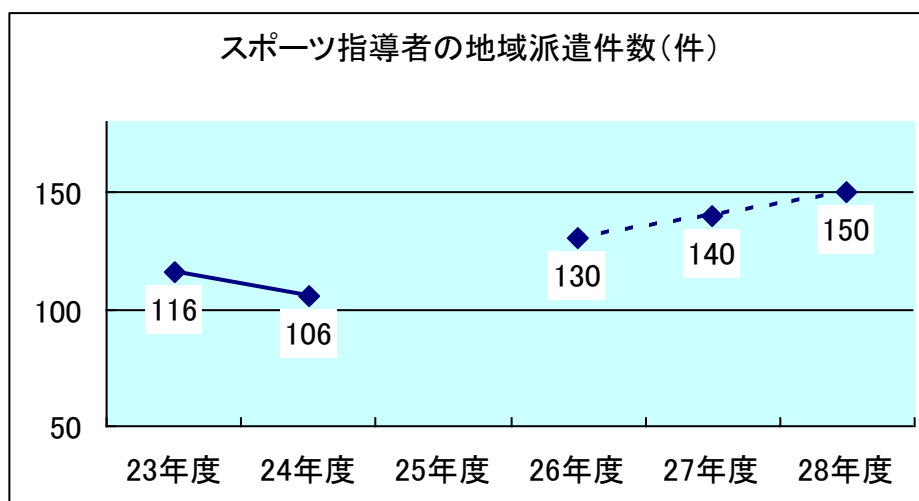
【目標値の考え方】

大学やプロスポーツ団体等へ積極的な働きかけを行い、平成 28 年度までには、各団体等との協働事業を合わせて年 8 回以上実施することを目指します。

◆主な関係団体

- ①日本サッカー協会
- ②読売巨人軍
- ③その他プロスポーツ団体
- ④大学等

(3) 区民のスポーツ技術と能力の向上



* 23・24年度は実績値

【指標の設定理由】

区民が安全にスポーツに親しむことができるとともに、スポーツ技術と能力の向上を図るためには、高い専門技術や熟練した指導方法を身につけた指導者による支援が必要です。

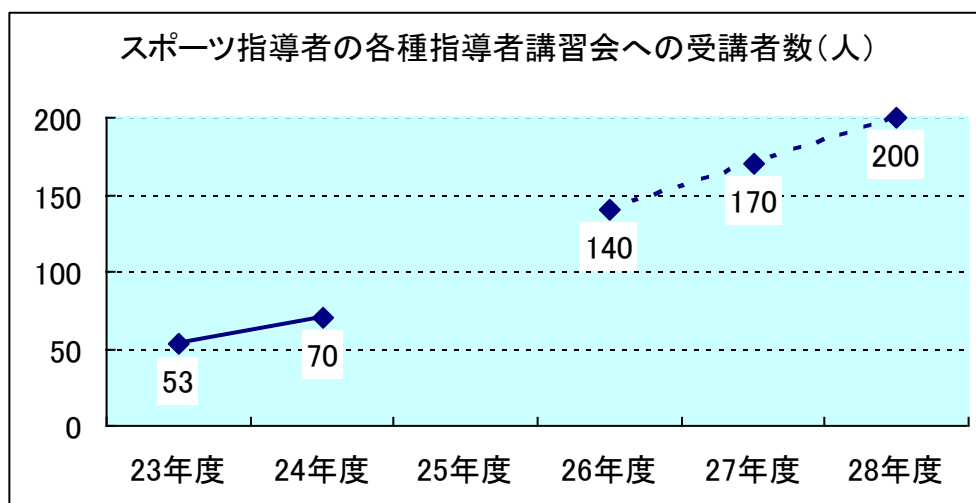
その成果を測るため、スポーツ指導者の地域派遣件数を指標とします。

【目標値の考え方】

スポーツ指導者の地域派遣制度の見直しと積極的なPR等を図ることで、より多くの区民に制度を利用していただきます。

過去の実績を踏まえ、28年度には派遣件数150件を目標とします。

(4) スポーツ指導者の資質向上



* 23・24年度は実績値

【指標の設定理由】

区民への支援を行う地域スポーツ指導者に対し、各種指導者講習会の情報提供等を行います。また、対象者が各種講習会を積極的に受講することにより、指導者の資質の向上を図ります。

その成果を測るため、スポーツ指導者の各種指導者講習会への受講者数を指標とします。

【目標値の考え方】

25年度までは、指導者講習会を年2回実施していました。26年度からは、実施回数を年3回とするとともに、より魅力ある講習会となるよう内容の充実化を図ります。

過去の実績を踏まえ、平成28年度までに200人以上の受講者数を目指します。

3-6 観光

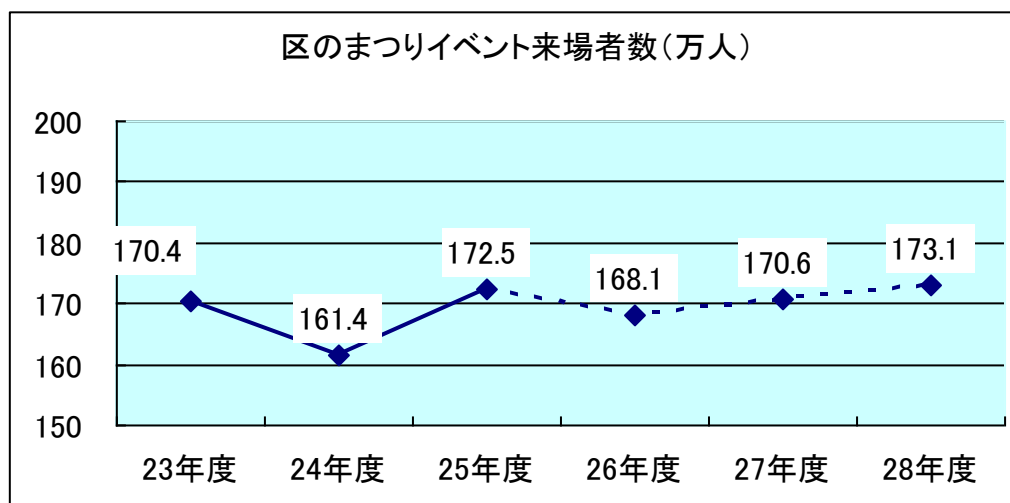
1 将来像

何度も訪れたいくなる、魅力とおもてなしの心あふれるまち

豊かな観光資源を活用し、四季折々の文京区の魅力を発掘・発信することで、訪れた人に「何度も行ってみたい」と思われるまちを目指します。また、区民一人ひとりが温かくお客様を迎えるおもてなしの心を持つことで、「いつでも来てほしい」と誇れるまちを目指します。

2 今後3か年の進行を管理する主な指標

(1) 何度も訪れたいくなるまち



* 23・24年度は実績値

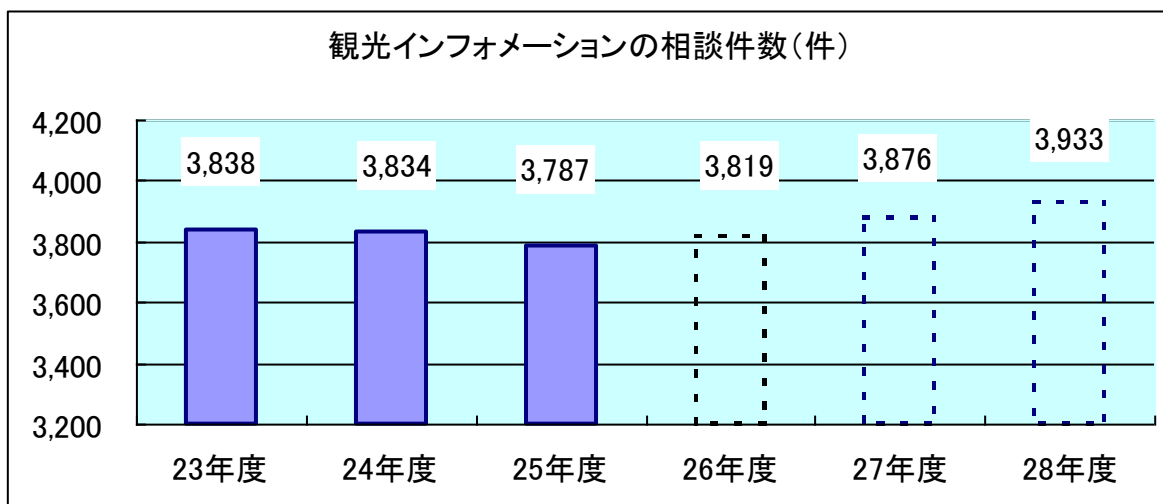
【指標の設定理由】

多様な手段を用いて観光PRを行うことにより、文京区への興味を高め、区の代表的イベントである「文京花の五大まつり」等まつりイベントへの来場者数の増加を目指し、またその数値を観光事業の成果として指標とします。

【目標値の考え方】

過去3か年(22~24年度)の実績の平均値から25年度の実績値を概算し、26年度の目標値についても同様に、過去3年間(23~25年度)の平均値からの概算をもとに設定したうえで、今後3年間でこの数値の3%増を目標とします。

(2) 観光資源の周知



23・24年度は実績値

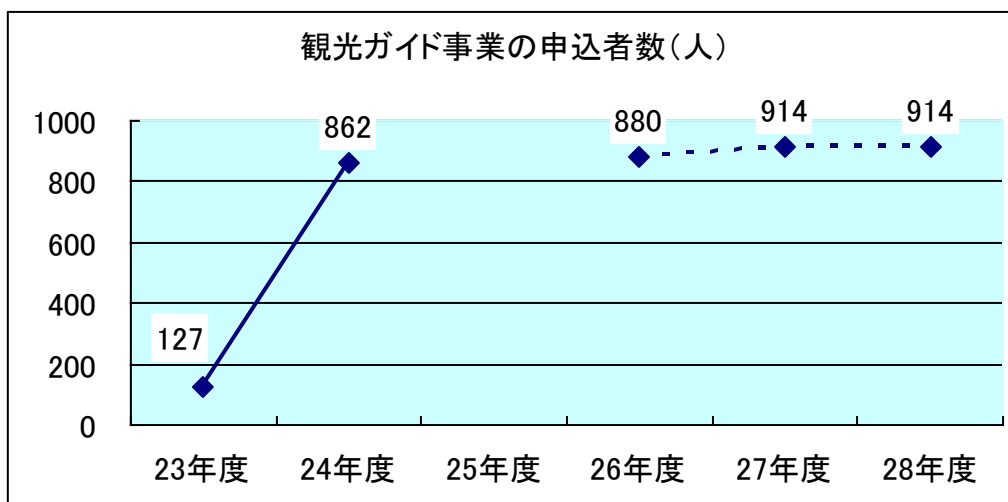
【指標の設定理由】

観光インフォメーションをはじめ、区HP・リーフレット等により、区の観光情報を効果的に発信していくことで、文京区への興味を高め、区への訪問者数の増加を目指します。その取組の中で、観光情報の発信に対する反応をはかる一つの目安として、文京区に関心を持ち、観光インフォメーションを直接訪れた方からの観光に関する相談件数を指標とします。

【目標値の考え方】

過去3か年(22～24年度)の実績の平均値から25年度の実績値を概算し、26年度の目標値についても同様に、過去3年間(23～25年度)の平均値からの概算をもとに設定したうえで、今後3年間でこの数値の3%増を目標とします。

(3) おもてなしの心の醸成



注：※ガイド事業開始は、23年10月からであり、23年度の実績は6か月分です。

【指標の設定理由】

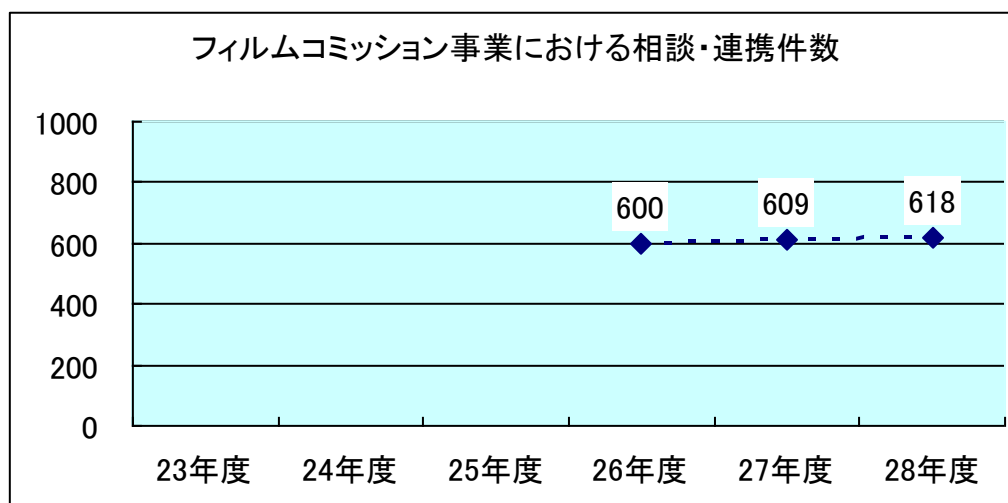
区の観光情報の発信等を工夫することにより、観光客の文京区への興味を高め、区

内のまちあるき希望者の増加を目指します。その取組の中で、まちあるきの希望者数を把握する一つの目安として、観光ガイド事業の申込者数を指標とします。

【目標値の考え方】

観光ガイドは隔年で養成し、養成年度の翌年から活動を開始するものです。24年度（養成年度）の実績を基準として、新たな観光ガイドが活動を始める翌年度は申込者数の3%増、養成を行わない次の年度はそのペースの維持を目的とした目標設定を行います。本計画期間においては、26年度、28年度を観光ガイドの養成年度として予定しています。

(4) 観光誘致と知名度向上



【指標の設定理由】

区内施設におけるロケ撮影に関する相談・連携件数を増加させることで、撮影希望者のニーズを詳細に把握し、関係各所との的確な調整等を行うことができ、質の高い撮影支援につながられます。また、ロケ撮影地として適した区内スポットの発掘に努めると共に、区内でのロケ撮影の協力実績を着実に積み重ね、その実績を、映像作品を通じた文京区新たな魅力としてホームページやツイッター等で区内外に発信することで、さらに文京区への関心及び認知度を高めることができます。これらの取組が、文京区の知名度の一層の向上とロケ地めぐりなどの観光誘致に寄与するものと考えられることから、区内施設等のロケ撮影に関する相談・連携件数を指標とします。

【目標値の考え方】

撮影希望案件を撮影媒体やジャンル等で分類し、分類ごとの案件数及び各案件にかかる必要な相談・連携の件数の概数を算出し、年間の撮影希望案件総てにかかる相談・連携数を概算設定しています。本指標は平成26年度から新規に設定すること等から、達成目標として3年目の平成28年度に3%増を目指す指標としています。

3-7 交流

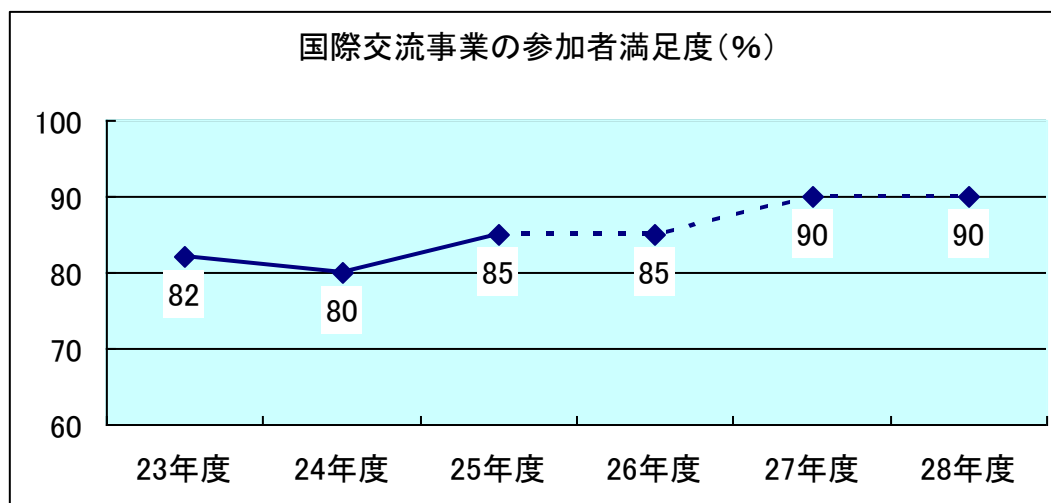
1 将来像

交流の輪を広げ、互いの魅力を高め合うまち

国内外の垣根を越えて、交流の輪を育むことで、たくさんの人たちとふれあい、多種多様な文化や考え方を尊重し、相互理解を深めていきます。また、他の地域の魅力を学ぶとともに、文京区が持つ未知の魅力を発見し、区外へ発信することで、互いの魅力を高め合うまちを目指します。

2 今後3か年の進行を管理する主な指標

(1) 海外都市との交流の推進



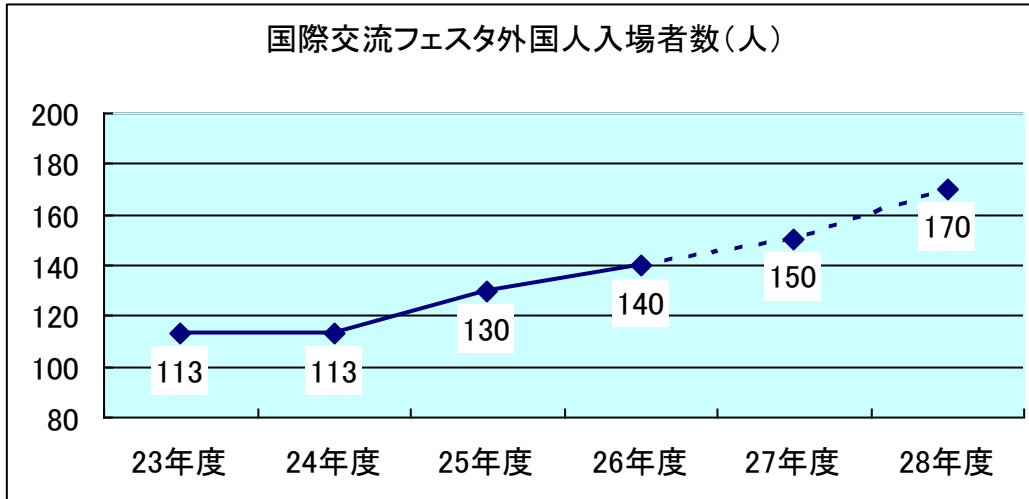
【指標の設定理由】

日本人、外国人の交流、相互理解を推進するため、様々な国際交流事業を実施していますが、実施するだけでなく参加者の満足度が高いものを提供する必要があります。また、参加者の満足度の高いものを提供することによって、次回以降へ向けた参加の継続性も得られるとともに、参加者からその情報が発信され、新たな層の獲得につながると思われられます。これらのことから、交流や相互理解が推進され、国際理解、異文化理解が深められたということができることから、交流事業の参加者の満足度を指標とします。

【目標値の考え方】

過去の実績を踏まえ満足度の向上に努め、平成24年度実績である、参加者の80%が満足しているという状況を維持し、上回っていくことを目指します。

(2) 外国人の地域への参画機会の提供



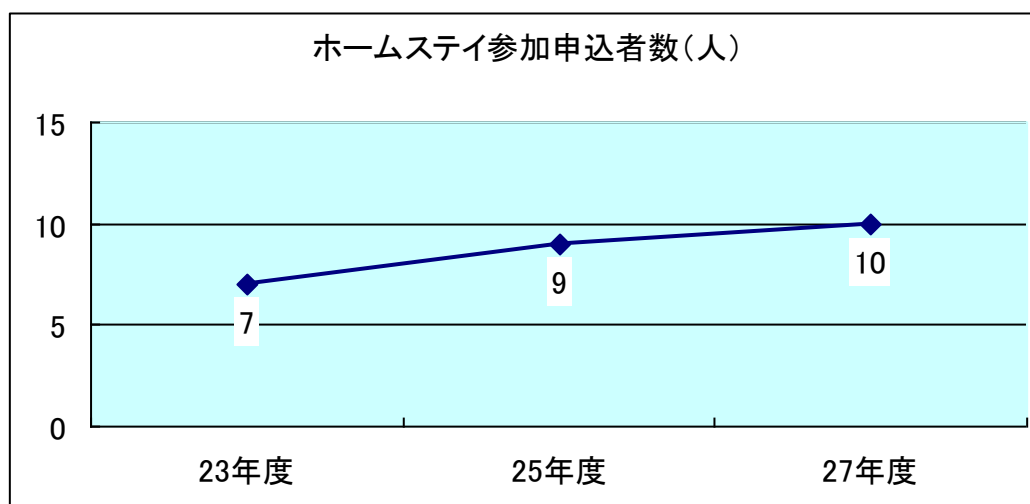
【指標の設定理由】

区が主催し、区民が参加する交流イベント（フェスタ等）に多くの外国人が参加することで、日本人、外国人による文化体験や交流を通じた相互理解が深められます。このことから、参加した外国人の数から、どの程度国際交流が行えたか、また相互の理解、友好が深められたかを把握することができると考え、外国人入場者数を指標とします。

【目標値の考え方】

過去の実績を踏まえ、入場者数の増加に努め、平成24年度実績を基準に、さらに上回っていくことを目指します。

(3) 国際交流体験



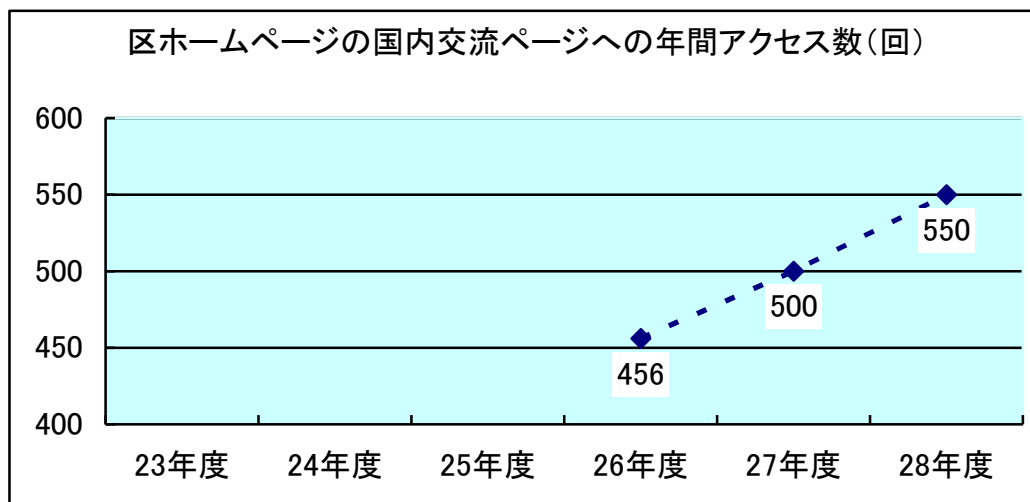
【指標の設定理由】

姉妹都市カイザースラウテルン市とのホームステイ生徒交換事業による異国の家庭での生活と自宅への外国人受入を体験することで、青少年の国際理解と友好交流が推進されます。この事業への申込者数から、区内青少年の姉妹都市に対する認知度や本事業への期待度、内容の満足度を計ることができることから、ホームステイ参加申込者数を指標とします。

【目標値の考え方】

過去の実績を踏まえ、申込者数の増加に努め、平成25年度実績を基準に、さらに実績が上回っていくことを目指します。(なお、ホームステイ事業は、1年目で生徒を派遣し、2年目はカイザースラウテルン市生徒の受入れを行うという2年で1回の事業のため、2年目の申込はありません。)

(4) 国内交流に対する区民の意識向上



【指標の設定理由】

協定等を締結している文京区とゆかりのある他自治体との国内交流に関する情報を発信し、国内交流の魅力を伝えるとともに、区民の関心を高め、交流促進を図ります。

【目標値の考え方】

現在は指標の基となる数値がないことから、区ホームページへの年間アクセス数を基に国内交流に関するページへのアクセス数を算出し、2年目以降は、前年数値の10%増加を目指します。